

TEKNA

(こどもたち)

2010 クリスマス号

マリア景山恭子

「布にくるんで飼い葉桶にねかせた。」 (ルカ福音書 2:7)

寒い夜に、1日の仕事を終えて布団にもぐりこみ、毛布に身を包まれる時のなんとも言えない安心感。これは誕生の時への回帰、とも言えるのではないのでしょうか？ほとんどの赤ちゃんは生まれた時に布に包まれます。この布を日本語では「産着—うぶぎ—」と呼び、英語では **swaddling cloth** と呼びます。大人になっても、この「包まれた感覚」は誰のうちにも残るもの。「だいじょうぶ」と私は誕生の時に感じました (と思うのです)。母の胎から送り出されて、布に包まれたその瞬間に、私は、「だいじょうぶ、すべてはだいじょうぶ」と、体全体で感じたに違いありません。その感触が私の無意識下にしっかり残っていて、布団にもぐり込む時に、温かな毛布に包まれる時に、ゆったりと私の中に戻ってくるのではないのでしょうか？

布に包まれ飼い葉桶に寝かされた赤ちゃん。どんな布がイエスさまを包んだのでしょうか？マリアとヨセフは、どんな布を飼い葉桶に敷いたのでしょうか？それは旅の途中大切に持ってきた特別な布？あるいは、ヨセフの来ていたシャツ？マリアのはいていたスカートのスそを切って？エリサベトを訪ねた時に、もしかしたら彼女から贈られたプレゼント？それとも人類始まって以来の決意をしたマリアが、不安のうちにも数ヶ月かかって縫い上げた産着？あれこれと想像は膨らみますが、とにかく「マリアは初めての子を産み、布に包んで飼い葉桶に寝かせた」、とルカは記します。身内の者からは歓迎されない出産、なんという孤独。しかしながら生まれてきた赤ちゃんに、そんな孤独は関係ありませんでした。赤ちゃんは、布に包まれた瞬間に「だいじょうぶ」と思ったに違いありません。そしてその感触は彼の無意識の記憶に深く、深く、刻み込まれたことでしょう。あたたかな布の感触。「だいじょうぶ、すべてはだいじょうぶ。」チクチクするほし草も、飼い葉桶のデコボコも、この布が和らげてくれました。

さて、ルカ福音書にはもう一カ所イエスを包む布が登場します。言うまでもなく、処刑されたイエスを包んだ亜麻布です。「遺体を十字架から降ろして亜麻布で包み、まだ誰も葬られたことのない、岩に掘った墓の中に納めた。」 (ルカ 23:53) 遺体を包む布は最上級の麻のようでした。生まれたばかりのイエスを包んだ布と、十字架から降ろされたイエスの遺体を包んだ布、なんという対比。亜麻布は、復活の場面で再び登場します。「ペトロは立ち上がって墓へ走り、身をかがめて中をのぞくと亜麻布しかなかった。この出来事に驚きながら帰っていった。」 (ルカ 24:12) 原文では、この亜麻布は「端切れ」であって、イエスの遺体を包んだ布全体ではないことをルカは書き分けています。復活を語る布切れ。

体を包む布が、どんなに大切であるか聖書の物語はイエスの誕生の時から、私たちに告げています。記憶にない私の誕生。その時に私を包んだ布。そして記憶の範疇を超えたところで迎える私の死。私の遺体はどんな布に包まれるのでしょうか？主のご降誕を祝いながら、寒さは本番に向かいます。布団にもぐり込むとき、思いめぐらしてみませんか？あなたを包んだ産着のこと。赤ちゃんイエスをくるんだ布のこと。イエスが生まれた時に空の天使たちが賛美の歌を歌ったように、あなたが生まれた日にも天使たちが神を賛美したことを。そして今宵、包んでくれる毛布もなく、ひとりぼっちで夜を過ごしている人たちがいることを。

(聖公会新聞の昨年のクリスマス号の原稿を編集しました／景山恭子)

☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆

クリスマス会に皆さまどうぞおいでください。皆さんと楽しいひとときを一緒に過ごしましょう。

日時：2010年12月17日（金）12時30分開始

場所：日本聖公会聖アンデレ教会の牧師館1階 会議室

会費：1500円（お子様は無料）

他に、500円くらいのクリスマスプレゼントを用意してください。

担当：元村、山添

12:30 クリスマスキャロルをうたいましょう。

13:00 お食事

14:30 キャロルと聖書の朗読

15:30 お茶 クリスマスプレゼント交換会！！

16:30 終了

☆パフォーマンスをしてくださる方募集中です。

☆途中からの参加でも大丈夫です。お子様もお友達も大歓迎です。

お食事の用意がありますので、12月16日までに欠席の返信をお願いします。

連絡はFAX03-3390-5655（三浦）

* 2011年1月の例会のご案内 *

皆さまどうぞおいでください。

日時：1月21日（金曜日）10時30分

場所：日本キリスト教団 三鷹教会

平池芳樹牧師

担当：山根弘子姉

皆さまどうぞ恵に満ちたクリスマスをお迎えください。